



のり面荒廃の原因は、
食害と踏み荒らし。
新発想の構造体と
高い技術力（特許取得）で、
のり面の植生を守ります。

植物の
生長点・根を
守る

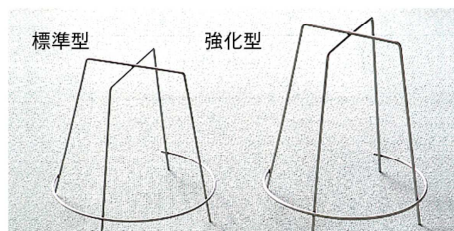
のり枠や
植生マットとの
組み合わせが
可能

目合いが
広がらない
特殊金網

豪雪地や
シカ密度の高い
地域での
適用も可能
(強化型)

平成22年に開発された「アニマルガード工法」は、緑化工をシカ被害から守る最も確実な方法として、道路のり面や治山工事で広く採用されています。

植生工の施工箇所を専用の台座と特殊金網で覆うことで、シカの侵入の抑制と食害による植物のダメージ軽減を図る工法です。のり面上で容易に施工でき、なおかつ確実に植生を保護する特許工法です。



ネット台座「ハイトキーパー」

のり面の凹凸に対応しながら、スカイクロスネットを約20～25cmの高さに浮かせます。シカが侵入した際もシカの荷重を一点に集中させない資材です。載荷試験では標準型～約2.0kN、強化型～約2.5kNの荷重耐力を有しています。オスシカの体重（約80kg）以上の荷重に耐えることができます。



格子型結束金網「スカイクロスネット」

金網の縦線と横線の交点部を特殊な編織方法で仕上げています。金網の目を広げようとしても交点が強固に固定されているため、金網の交点がずれにくい構造が特長です。

被害状況 食害と踏み荒らしによる植生の衰退。

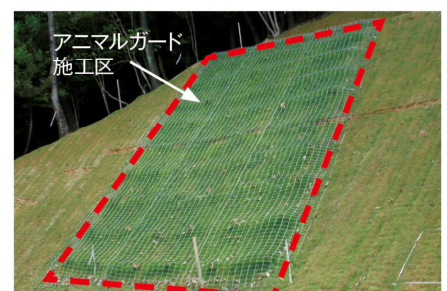


植生基材吹付工



植生マット工

施工事例



広島県

アニマルガード工の施工手順



植生マット・シートの敷設
場所や状況に応じた植生マットやシートを施工します。



ハイトキーパーの設置
施工した植生マットやシートの上から、一定間隔にハイトキーパーを設置します。



金網の展開
設置したハイトキーパーの上から、スカイクロスネットを展開します。

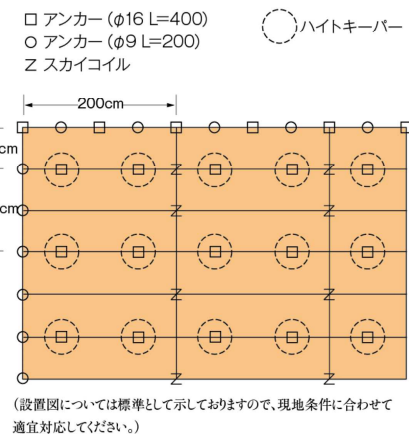
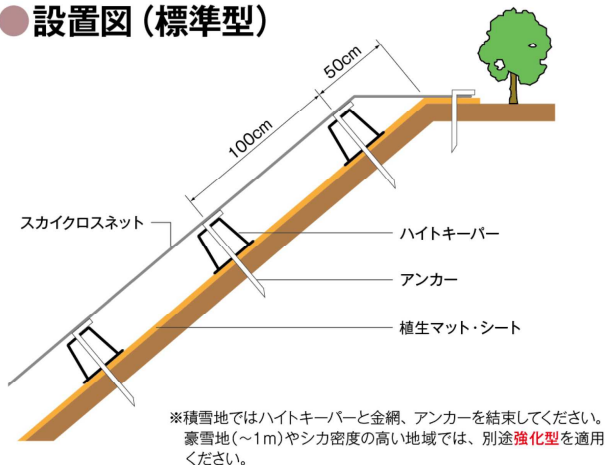


金網の結合
専用のスカイコイルで金網を結合します。



施工完了
スカイクロスネットが一定の高さで保持されています。

●設置図（標準型）



これまでの施工事例や試験データを収集、整理した冊子「のり面緑化用獣害対策工法 設計・施工引き（案）アニマルガード工法」平成26年4月、国土環境緑化協会発行にて、本工法の開発経緯から詳細な性能等を確認することができます。

●標準規格

| 資材名 | 高さ | 外径 | 線径 | 素材 | 入数 | 備考 |
|------------|------|--------|-------|-----------|-------|-----------------------|
| ハイトキーパー | 23cm | 26.5cm | 4.0mm | 3種亜鉛めっき鉄線 | 50個／箱 | 別途 W(間伐材利用) タイプあり |
| 強化型ハイトキーパー | 28cm | 26.5cm | 5.0mm | 3種亜鉛めっき鉄線 | 50個／箱 | 豪雪地（～1m）やシカ密度の高い地域に適用 |

| 資材名 | 幅 | 長さ | 網目 | 線径 | 素材 | 入数 |
|-----------|----|-----|----------|------------|----------|-------------------------------|
| スカイクロスネット | 2m | 10m | 76×127mm | 縦・横線／2.5mm | 止線／2.3mm | 4種亜鉛めっき鉄線 20m ² ／巻 |

| 資材名 | 長さ | 線径 | 素材 |
|--------|------|-------|-----------|
| スカイコイル | 10cm | 1.8mm | 4種亜鉛めっき鉄線 |

施工事例



のり砕工と併用



植生シート工と併用

イノシシ対策タイプ

| 資材名 | 幅 | 長さ | 網目 | 入数 |
|------------|------------|----------|-----------|---------------------|
| グランドクロスネット | 2m | 15m | 76×125mm | 30m ² ／巻 |
| | 線径 | | 素材 | |
| | 縦・横線／2.0mm | 止線／2.0mm | 4種亜鉛めっき鉄線 | |

| 資材名 | 規格 |
|------|--------------------|
| ししピン | D10mm L=300mm、両端先付 |

